

総務文教厚生委員会

■今定例会の審査結果

今定例会では、「旧福井県立勝山精華高等学校の土地に係る補償費の額の確定に関する調停に係る調停案の受諾について」等の議案8件と陳情3件について担当課より詳細な説明と意見を求め慎重に審査しました。審査の結果、議案8件については可決し、陳情3件については不採択としました。

市民交流センターの管理運営について

旧平泉寺荘、旧市民活動センター、旧奥越地域地場産業振興センターの三施設を集約し、その施設のひとつである旧地場産センターに新たに健康増進を目的にした入浴施設の改修工事が平成26年度中の完成を目指して12月から本格化することです。センター全体の管理は市の直営とし、市民活動センターの機能部分については市民団体が運営、現在の談話室を喫茶・軽食コーナーとしての運営も検討中であるとの報告がありました。

納税奨励金のあり方について

平成26年度末をもって納税組合奨励金を廃止する提案がなされました。同制度は、昭和34年度から納税思想の啓発高揚を図るため、納税組合に対して納税奨励金の交付を行ってきました。これまでの取り組みもあつ

て24年度の市税収納率は県内でもトップクラスとなりました。理事者からは、口座振替にする人も増えて、納税組合を利用する人の公平性を考慮するとともに、納税奨励金を交付している自治体が県内では少なくなつたこともあり、廃止したいという提案があり、平成26年2月に納税組合長会議を実施し説明を行うとともに、広報等を通じて周知を図るとのことです。

今後は、納税奨励金の廃止予定までの1年3カ月の期間、更に積極的に口座振替への切り替えをお願いしていくとのこと。なお、今年度は口座振替奨励金ということで新規に口座振替していただいた方1人1回のみ、1000円を交付していますが、この事業については来年度も続けるとのこと。

勝山市国民健康保険税改定(案)について

今回、理事者より勝山市国民健康保険税改定の原案が提示されました。「健康保険の保険給付費は、平成16年度から伸び続けており、平成17年度以降は基金を取り崩して国保税の引き上げを抑えて財政運営をしてきた。

しかし、平成23年度末には基金が底をつき、平成24年度には、基金による補填ができないため、一般会計からの繰入金を増額するとともに、必要額を国保税の引き上げによって確保した。

今回、平成26年度は、医療分の若

干の引き上げと後期支援金分、介護分の必要額確保のための引き上げをお願いしたい」との説明がありました。複数の委員より2年前に改定されたばかりで、さらに値上げをする案には応じられないとする厳しい指摘がある中で、国民健康保険制度を取り巻く厳しい社会経済情勢を鑑み、今後の見通しなどを十分見据えたいうえで、市民の皆様にご理解をいただけるよう議論を深めるために、同改正案については、委員会で継続して審議することになりました。

視察報告

委員会では11月5日から7日までの3日間、香川県、徳島県方面へ行政視察を行いました。

香川県善通寺市では、「文化財を利活用しながら保存する取り組みについて」と「小中学校における市費雇用の外部講師について」、また徳島県三好市では、「スクールバスの運行と住民利用について」と「休廃校活用にかかる事業公募について」、さらに美馬市では「NPO法人こやだいらの活動」と「重要伝統的建造物群保存地区うだつの町並み」について、それぞれ視察を行いました。美馬市の「NPO法人こやだいら」は、美馬市街地から約1時間かけて、大野市上打波の鳩ヶ湯に行くよりも狭い道路を剣山の麓へ進んだ木屋平地区で活動しています。そこは人口約900人の地区で360人の会員によりNPO法人を



設立し、過疎地有償運送や高齢者生活支援、農林業作業支援などの事業を行っています。過疎地有償運送事業により、高齢者が診療所等へ気軽に出かけやすくなったため、定期健診などをこまめに受診するようになり、結果的に医療費が削減されたとの報告もありました。行政の支援が行き届かない部分を地域の住民によるNPOの活動により、地域の住民をサポートする取り組みについては、将来勝山市においても参考にできる内容であると感じました。